

令和8年度連携排砂計画（案）及び
 連携排砂に伴う環境調査計画（案）に関する関係団体からの意見と対応について
 【令和8年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業関係団体	(1) 流木による被害は、出漁できなくなるだけでなく、船や網などの破損を引き起こし、漁労収入の減少や修繕費の増加につながるため、漁業経営はより厳しくなることから、河川やダムの流木を取り除いていただきたい。	河川やダムの流木については、状況を確認しながら定期的に取り除いており、治水や河川環境への影響が危惧される箇所において、引き続き河川管理上必要となる対策を行ってまいります。

【令和8年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業関係団体	<p>(2) 熊の出没や30年以上の観測データの蓄積、近年安定した結果が得られているなどの理由により、環境調査の合理化を図るとありますが、漁業者が懸念する1回の排砂量が平年を大きく上回る場合や、ダムに堆積して1年以上経過した土砂の流出が見込まれるなど、海域への影響が危惧される場合は、これまでと同じ環境調査を実施していただきたい。</p>	<p>海域への影響が危惧される場合については、今回提案の環境調査計画内容にとられることなく、関係箇所と協議の上、環境調査の内容を決めていきたい。一方で作業の安全性は確保しなければならないため、これまでと全く同じ環境調査は難しいことをご了承いただきたい。</p>

【令和8年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業関係団体	<p>(3) 宇奈月ダム直下の環境調査によって海域への影響が評価できるため、出し平ダム直下の環境調査の合理化を図るとのことですが、宇奈月ダム直下の調査結果で異常な数値が出た時に、その原因が宇奈月ダム由来なのか出し平ダム由来なのかが分かるようにし、すぐに対処できるようにしていただきたい。</p>	<p>出し平ダム直下の環境調査において、過去の観測データから、濁度と他の観測項目に相関性があることを確認しているため、濁度を自動観測することで、出し平ダムでの異常値は概ね検出できると考えている。</p> <p>なお、出し平ダム直下での観測結果については、リアルタイムでの把握が可能な構成となっている。</p>

【令和8年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>(1) 河口域における土砂堆積の変化について 近年の連携排砂では、土砂の粒度や性状が変化し、比較的軽い砂の割合が増えているように感じています。その影響として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河口流域に大量の砂が堆積 ・魚類の生息環境への悪影響 ・河口閉塞の進行 <p>といった問題が顕在化しています。</p> <p>(2) 河口沖合または中州の土砂撤去の検討について</p> <p>現状のままでは河川環境や漁業への影響が懸念されるため、次のいずれかの対策を検討していただきたいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河口沖合に堆積した土砂の撤去 <p>もし技術的・予算的に困難であれば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河口から上流約0.3kmまでの中州状に堆積している土砂の除去 <p>いずれかの方法で、河口の流れを確保し閉塞を防ぐ対策をお願いしたいです。</p>	<p>黒部川河口域は連携排砂のみならず出水や風浪等により、堆積や侵食を繰り返しているものと考えています。</p> <p>河口周辺の土砂撤去については、治水や河川環境への影響が危惧される箇所において、引き続き河道掘削や樹木伐採等の河川管理上必要となる対策を関係機関と調整の上行ってまいります。</p>

【令和8年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業関係団体	<p>(3) 昨年度の連携排砂後の地形変化について 昨年の排砂後、現地を確認したところ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河口先端が約100m沖へ伸びている ・その結果、波の作用により波堰堤のような状態が形成されている <p>という状況が見られました。これは河口閉塞をさらに助長する可能性があります。</p> <p>(4) 航空写真による土砂増減の把握について 河口域の地形変化を正確に把握するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河口から沖合まで含めた航空写真の撮影, 比較を実施していただきたいと考えています。 <p>これにより、排砂の影響範囲や土砂移動の傾向をより客観的に評価できると思われます。</p> <p>令和7年度の実施結果にある航空レーザー測量結果については河口までしか測量されていないが、できれば500mほど海側まで測量範囲を伸ばしていただきたい。海側の堆積状況も把握したほうがいいのではないかと。</p>	<p>河口テラスは、出水・洪水、波浪や沿岸流等の作用により変動するものですが引き続き河口域の状況を注視してまいります。</p> <p>環境調査計画（案）実施予定としている航空レーザー測量（ALB）では水深が深いと測深が不可能になるため、測量範囲を伸ばすことは技術的に困難です。海岸事業に関連する測量成果なども活用し、状況の把握に努めてまいります。</p>

【令和8年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
農業 関係団体	<p>(1) 近年、農業は担い手農家等に農地が集約され、大規模経営となっている。</p> <p>そのため、担い手農家は、水の必要な時期が以前と比べて長期化しており、連携排砂及び通砂による断水の時期と農作業の関係性に強い不安を抱いている。</p> <p>こうした農業情勢の変化を充分考慮され、連携排砂及び通砂の実施情報の<u>更なる周知</u>を図ること。</p> <p>また、農作物への影響を最小限にするため、連携排砂及び通砂による合口用水の取水停止時間を長期化しないよう配慮するとともに、出穂期等で農業用水が特に必要な時期は、連携排砂及び通砂基準を満たした場合であっても実施はしないこと。</p>	<p>実施情報の周知につきましては、Xや黒部河川事務所ホームページの「緊急情報掲示板」による情報発信を引き続き実施してまいります。今後も連携排砂等を実施するにあたっては、地域の皆さまにご理解とご協力が得られるよう分かりやすい広報、情報提供に努めてまいります。</p> <p>合口用水の取水停止時間の短縮については、排砂後の措置完了を待たずして取水を再開できないか等、取水停止期間をできるだけ短縮させるための検討を行い、今後とも関係者と調整してまいります。</p> <p>なお、現在の排砂・通砂の実施期間については関係機関や関係団体からのご意見をもとに排砂評価委員会ならびに土砂管理協議会で評価・議論し決定されております。実施機関としましては、引き続き関係機関や関係団体のご意見を伺いながら、より自然に近い形での連携排砂・連携通砂が実施できるよう努めてまいります。</p>

【令和8年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
農業 関係団体	<p>(2) 長年の連携排砂及び通砂により、愛本堰堤上流には大量の砂が堆積しております。</p> <p>昨年、左岸沈砂池及び下流水路に大量の砂が堆積したことなどから、十分な対応をお願いしたい。</p>	<p>昨年発生した左岸沈砂池への砂の流入については、その性状からこの時期にダム上流から到達したとは考えづらく、出水時に流下した砂が局所的に土砂堆積しやすい場所である愛本堰堤の上流付近で堆積し、春先の小規模出水により流入したものと推測されました。</p> <p>河川管理者としては、黒部川上流域における崩壊地の状況把握、河川域での状況把握、昨年度愛本堰堤上流で実施した維持的な河道掘削等、河川管理上必要な対策を引き続き行ってまいります。</p> <p>また、愛本堰堤の施設所有者である富山県、施設使用者である北陸電力（株）でも出水時等における的確な取水管理、左岸沈砂池での土砂堆積状況に応じた排砂、左岸取水口の状況把握とゲート放流による土砂堆積抑制等の対応を行います。</p> <p>引き続き情報共有を密に行いながら、連携して必要な対策を実施してまいります。</p>